

# 農林水産大臣賞受賞

花とみどりとあたたかい人たちがいるまち

受賞者 あらいじゅくえき ちいき きょうぎかい  
**新井宿駅と地域まちづくり協議会**  
かわぐちし  
(埼玉県川口市)

## ■ 地域の沿革と概要

川口市は埼玉県の南東部に位置し、荒川を隔てて東京都に接し、面積約 62 km<sup>2</sup>、人口約 60 万人の中核市であり、鋳物や植木の町として知られている。鋳物産業は、江戸中期以降、技術の確かさと江戸町民の需要増大により盛んとなり、植木や苗木の栽培は、明暦 3 年の江戸大火によって焼野原となった江戸へ植木や草花を供給して以来発展した。現在賑やかな川口駅前付近は見渡す限りの田畑や湿地帯であったといわれている。オイルショック以降、中心市街地にあった鋳物工場は移転や廃業が相次ぎ、跡地には百貨店等の商業施設や中高層のマンションが建ち並び、それまでの景観を大きく変えた。

神根地区はほとんどの地域が大宮台地と呼ばれる関東ローム層からなる洪積台地に位置し、市内では最も緑が多い。一方、重要な交通拠点でもあり、東北自動車道、東京外環自動車道、首都高速川口線が通り、当該地区内に首都高初の「川口ハイウェイオアシス」を有する。また同地区には日本の都市公園 100 選に選定されている「川口市立グリーンセンター」や地域の基幹病院である「川口市立医療センター」、大型ショッピングセンターの「イオンモール川口」が立地している。平成 13 年に埼玉高速鉄道の「新井宿駅」が開業してからは宅地化が進み、街並みは大きく変化した。

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

この地域は都市計画上の市街化調整区域が多く、東京近郊でありながら緑地帯が多いものの、近年耕作放棄地が増え、農地が資材や産廃置場になり始めたことから、地域の魅力を発掘し、未来の地域の人たちのために役立てるため、地域の魅力発信を行っている。

「新井宿駅と地域まちづくり協議会（以下「本協議会」という。）」には、都市農家部会、歴史部会、文化・工芸部会、プロジェクト部会、地域事業部会があり、目的に応じ、効率的

第 1 図 位置図



に活動を行っており、特に、多彩な6次産業化商品、イベント、地域に伝わる赤山洪の復元、緑化活動、歴史紹介等、幅広い活動を行っている。

このように、本協議会は都市地域でありながら、農業の大切さを伝える活動において当該地区の中心を担っている。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

本協議会は、新井宿駅と近隣の地域の住民有志で平成23年3月に設立し、地域の環境が大きく変化していく中、この地域に暮してきた人々は、古くから伝わる文化や歴史はこのまま埋もれてしまってよいのだろうかという思いがあった。

このため、「地域の魅力を発掘し、10年後、20年後、もっと未来の地域の人たちのために役立てたい。」との思いで地域の特長を改めて見直した。

特に、「都市型農業の魅力」と「確かな暮らし」を結ぶまちづくりをテーマに発足した本協議会には、立場を問わず徐々に志を同じくするメンバーが集まり、新井宿駅を中心に神根地区、また、その周辺地域を活動の場としている。事務局会議兼役員会を毎月第1月曜日に開催するとともに、会員全体会議は毎月第3月曜日に開催している。

第1表 地区の概要 ※R2年現在

事 項	内 容	
地区の規模	旧市町村単位の集団等	
組織の性格	機能的な集団等	
人口等	総人口	594,274人
	総世帯数	267,141戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数	387経営体
	個人経営体数	364経営体
	団体経営体数	23経営体
	(内、法人経営体数)	23経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	6,195ha
	耕地面積	385ha
	田	2ha
	畑	383ha
	耕地率	6.2%
	一経営体当たり耕地面積	1.0ha



写真1 協議会主催のイイナフェスタ

### (2) むらづくりの推進体制

本協議会は、平成27年から「都市農家部会」、「歴史部会」、「文化・工芸部会」、「プロジェクト部会」、「地域事業部会」に集約され、それぞれに活動・発展している。地域の農業や歴史、文化などに着目しながら、調査や研究など地道な活動を日々行っている。約50名でスタートした会員数は現在85名になり、構成員は農家を中心に30%を占めている。飲食店、食品加工業者が20%弱、その他様々な職業の一般住民がボランティアとなっている。

## ア 都市農家部会

イベントでの農産物の販売や収穫体験、農地の有効活用、6次産業化、耕作放棄地対策等、様々な問題を抱える都市農業がどうあるべきか検討する活動を行っている。

春キャベツの収穫体験は毎年5月に行っており、年々参加者が増え、参加者は300人程度となっているものの、ここ数年はコロナで中止している。会員飼育のヒツジの毛刈りも見学でき、子供が大喜びのイベントになっている。

じゃがいもの収穫体験は、毎年6月に住宅街の真ん中の畑で開催している。参加者数は毎回200人程度で、10月には落花生の収穫体験も行い80人が参加する。

令和3年10月には会員農家がダリア園をオープンし、約30aの園内に300種2,000株の赤や黄、オレンジなど色とりどりのダリアが咲き誇り、来園者の目を楽しませた。

摘み取り体験や生け花教室も開催し、地域住民との交流の場となっており、いずれも住宅の近隣に畑があり、近所で収穫体験ができる魅力的なイベントとなっている。



写真2 都市農家部じゃがいも収穫体験



写真3 都市農家部ダリア収穫体験

## イ 歴史部会

地域の歴史、文化財、伝統を担当し、日本遺産の認定を目指す。平成24年から地元の偉人である関東郡代伊奈氏の研究とその顕彰を目的として発足した。フィールドワーク、小冊子の発行、バスツアー、講演・展示、「のらぼう菜」の栽培推進など普及活動をしている。

「のらぼう菜」は赤山城主の伊奈家10代目当主が関東の山あいの村々に種子と栽培指南書を配布し奨励した西洋菜である。栄養価が高く、天明・天保の飢饉の際、領民を飢えから救ったといわれる。



写真4 歴史部桜ウォーク



写真5 歴史部バスツアー

## ウ 文化・工芸部会

江戸中期より特産品として重宝された赤山渋の復元や工芸品を担当しており、かつて地域の特産品であった「赤山渋の復元プロジェクト」が活動の中心である。

化学塗料が普及する前に日常的に防水・防腐・染料として使われていた赤山の柿渋を復元

し、染物や工芸品を作っている。

また、「地域の文化を伝える」と題して、近隣の小学校で赤山染めを子どもたちに教える活動などもしており、それが新聞各紙に取り上げられ、展示会や講演なども催され、注目度は年々増している。



写真6 文化工芸部赤山染作り



写真7 文化工芸部赤山染作品

## エ 地域事業部会

「この地域でお店を出したい」、「何かをやるための場所が必要だけどどこかにいい場所はないか」、「こんなことで新しいビジネスができるのではないか」など様々な新しいことにチャレンジする人やケースを相談する際に、その都度立ち上げる部会となっている。

## オ プロジェクト部会

部会とは別にイベント等で組織されるプロジェクトチームであり、「これをやってみよう!」と発議され、様々なことに取り組んでいる。地域の方言である「神根ことば集」やマップ作製、埼玉高速鉄道とのコラボイベントなどを行っている。

## カ 他の組織、団体及び行政との関係

協力団体として「赤山陣屋の会」「折り紙夢工房」があり、「赤山陣屋の会」は赤山区の緑地・自然保護と住みよいきれいなまちづくりを目的とするNPO法人であり、赤山陣屋内の環境整備と陣屋の自然環境を活かしたイベントを行っている。

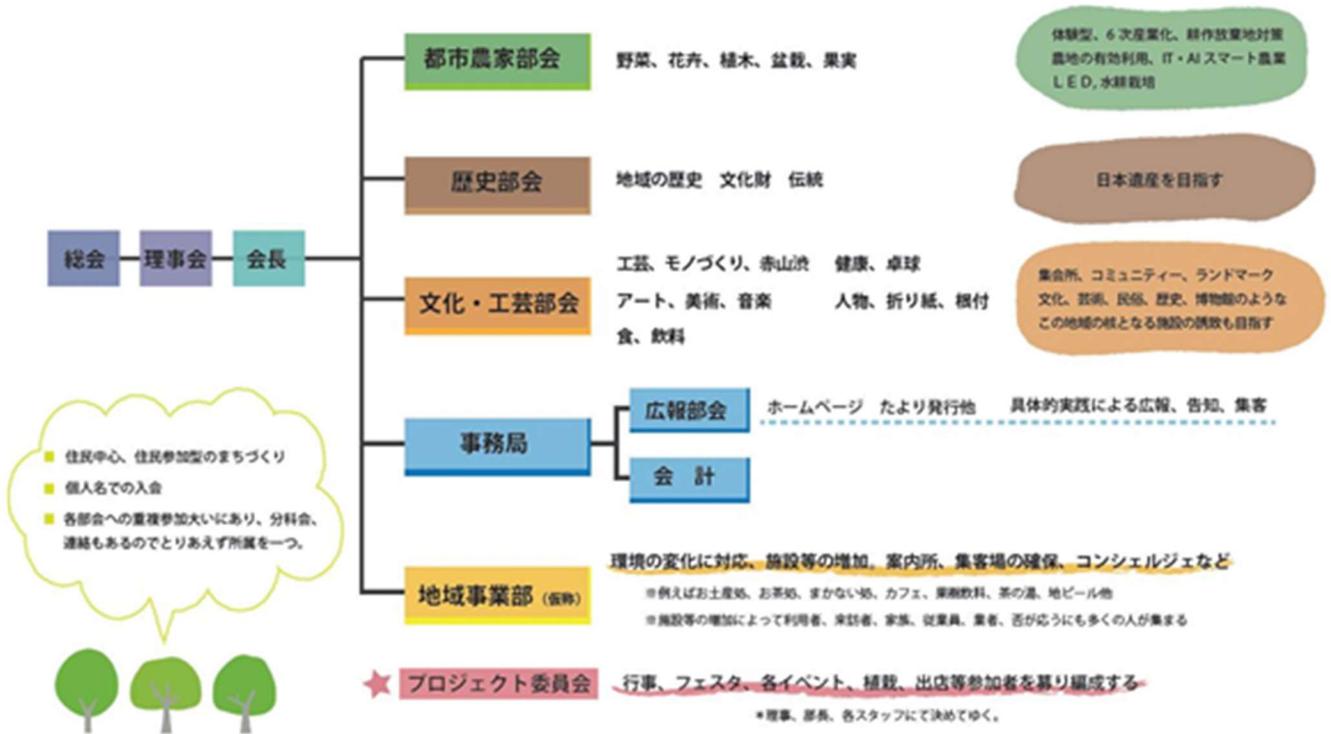
「折り紙夢工房」は50周年をむかえ、日本の文化【ORIGAMI】を伝承し続けている団体であり、折り紙教室の実施、各種の作品展、研修会の開催、ボランティア指導者の養成をしながら、地域のイベントや国際交流事業へ参加、地域社会へ貢献している。両組織とも協力団体として、イベント時に参加している。

イベント会場として「イイナパーク」および「川口ハイウェイオアシス」、イベント協力などで「SR埼玉高速鉄道株式会社」「鳩ヶ谷商工会」「川口観光物産協会」「JAさいたま」がある。

農産物の販売では「JAさいたま農産物直売所」、「イオンスタイル新井宿店」、農業振興では「川口農業ブランド推進協議会」、駅前植栽活動では「川口市みどり課」の補助を受け、イイナフェスタでは「川口市産業振興課」の補助金を受けている。

その他として市内の食品加工業者・飲食店・菓子小売業者（株アライ、GROW BREW HOUSE、和菓子舗中ばし、パン屋 HOPPE\*HOPPE など）と6次産業化商品の創出に協同している。

第2図 むらづくり推進体制図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

本協議会の特徴は都市の中にある農業の利点を生かし、様々な農業コンテンツを創出して都市住民と農業を結び付けている点である。また、それだけに偏らず植木の里の緑の景観、史跡、そこに点在する民家カフェなどもPRし総合的な地域の魅力発信に努めている。

川口市産農産物を使った6次産業化商品は、今まで地域の原材料を使ったご当地産品が少なかった川口市において開発をリードしており、市内の食品加工業者や飲食業者の注目を集めている。その他、耕作放棄地の活用、せん定枝等を土に還す取組、収穫体験、特産品（赤山洪）の復元、地域の歴史・伝統の保全など幅広い活動を組織的に展開している。上記のような多彩な活動によって川口の農業を牽引するのみならず、「住みやすい街川口」から「住みたい街川口」にグレードアップを図る川口市にとっては欠かせない存在となっている。本協議会は都市部にある同じような条件の地域の農業のあり方の模範になると考えられる。

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) 6次産業化で地域の活性化

本協議会会員にはいちご農家が2軒おり、学校給食では使用の難しいいちごを、川口市産100%使用のいちごゼリーとして開発し提供するとともに、農薬を使用せず栽培したじゃがいもも学校給食として提供した。

また、川口市の特産品として知られる「ぼうふう」は学校給食では「ぼうふうごはん」として提供している。

神根特産の生姜を使った「神根生姜ウインナー」や地場産夏みかんなどの果物を使ったジャムは川口ハイウェイオアシス売店で人気商品となっている他、「果肉たっぷり夏みかんかき氷」などを開発、イベントで好評を得ている。

さらに、クラフトビールチームは、材料全てを埼玉県産で醸造するという取組を行った。夏みかん、青梅、生姜など地域で採れる食材が存分に味わえる「神根セゾン」をまちのビール醸造所「GROW BREW HOUSE」が季節ごとにリリースしている。



写真8 神根セゾンゆずビール



写真9 なつみちゃんブレッド



写真10 神根生姜ウインナー

### (2) 耕作放棄地対策と新たな販売対策

高齢化や後継者不足で継続的に耕作が難しい場所は、栽培の手間が少ない柑橘等、品目を選んで栽培し耕作放棄地となるのを防いでおり、本協議会の活動が発展する過程で農家の意識も変わりつつあり、いくつかの農家で後継者が生まれ自主的に直売所など運営する農家も現れた。

また、近年需要が少なく、生産性の悪い植木等を見直し、落花生や果樹などに転換し、収穫体験や6次産業化に活用している。都市農家部のメンバーがイオンスタイル新井宿駅前店にかみね野菜コーナーを設置し、地場産野菜を供給しているとともに、収穫情報をSNSで毎日発信している。

その他飲食店、和菓子などにも利用できるよう会員同士で情報共有を働きかけている。



写真11 地元スーパーの地場産野菜コーナー

### (3) 後継者の育成・確保

直売所やスーパー以外に販路を開拓して収益を生み出す新たな6次産業化商品の開発により、地場産の農産物をPRするとともに、イベントでの売り上げが収入につながっている。

後継者の育成として、都市農家部会会員の子弟である20代女性が新規就農した事例があり、SNSでの情報発信など、その活躍が多くのメディアに取り上げられている。

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 地域資源を活用した環境保全対策

本協議会では、素材や資源として、地域で木を活かす取組をしている。

剪定した木々を土に還す取組として、竹は竹パウダーに加工、伐採された大木は薪ストーブ、ウッドチップは雑草対策にもなるので公園や緑地に利用される。一方で、木工品として生まれ変わる木もある。ケヤキは大黒柱や梁になり再び住宅の一部に加工されており、また地域木材の端材は一輪挿しを飾る手のひらプレートや箸などの手しごと品として生まれ変わっている。

これらは地域木材を活用した加工品として地元の店で作られている。また、ビール麦芽かすは堆肥化して利用している。

川口市の「緑のまちづくり地域緑化事業」への協力として新井宿駅周辺歩道に33箇所プランターを設置し、年2回植え替えを行い、花の水やり、管理を行っており、こうした取組は発足時より継続している。

#### (2) 地域の魅力の情報提供、情報発信

前述した収穫体験や各種イベントを通じ、地場産農産物（かみね野菜）、6次産業化商品への理解の醸成を図るとともに、地域の歴史の展示や講演、ウォーキングなどで地域の自然や歴史を知ることができる機会を提供している。

クラフトビール作りでは、SNSでビールに使用するフルーツを収穫に行くことを呼びかけると、30人ほどの親子連れが農園に集まり、参加者からは「やっぱり緑は残さなければいけないね。」という声が聞かれた。

また、ホームページを中心にSNSを駆使し、地域の魅力や本協議会の活動を発信し続けたことにより、地域内での分譲住宅やマンション広告などで、本協議会が発信する地域の魅力や本協議会女性会員の店舗などが紹介され、定住促進に一役買っている。

さらに、桜ウォークや収穫体験で自然や農業に直接触れるイベントを通じ、地域の魅力を体感してもらっており、柿渋作り、地元食材ジャムの製造は女性会員が担当している。